

主 題：信仰者の義務
聖書箇所：使徒の働き 1章8節

ちょうど、日本に帰るためにシカゴ空港のホテルにチェックインしていたとき、異様な光景に驚きました。というのは、私の周りにはイスラム教徒で一杯だったからです。ホテルのカウンターの方が「今日はイスラムの方ばかりです。」と言われ、かなり大きなホテルでしたが、右を見ても左を見てもイスラムの人たちばかりです。正直、アメリカにいるのか？サウジアラビアにでも来たのかと思う程の余りの数の多さに驚きました。すぐに分かったことは、実は、すぐ隣の会議場で、北米のイスラム教徒の大会が開かれるということでした。そのためにイスラム教徒の皆さんが北米中から集まって来ていたのです。現在600万から800万人と、正式な数は分からないと言われていますが、それだけの信者がいるということです。アメリカにおいて最も信者の数を伸ばしている宗教の一つであり、キリスト教に次いで、その勢力が第2番目に拡大するだろうと言われているイスラムです。

この団体が設立されてもう何年にもなるのでしょうか、その代表者たちはこのようなことをイスラム教徒たちに言っています。「イスラム教徒として生きなさい。そして、他の人にイスラム教の話をしなさい。」と。そして、彼らは自分たちに与えられた務めを果たそうとしています。自分たちが真理と信じる教えをより多くの人々に伝えようとしています。アメリカにおいても多くの人々がイスラムへと改宗しています。その日も、あちこちにサインやポスターが貼られて、警察官が交通整理をしています。3500人もの人々が道路を渡って会議場へと向かっているその様な光景を目の当たりにして、私たち信仰者は何をしているのか？とそのように思いました。彼らは一勝懸命、自分たちに与えられた務めを果たそうとしています。私たち信仰者は主から与えられたその務めを十分に果たしているのでしょうか？また、その務めを十分に果たそうとしているだろうか？そのことを今日、私たちはいっしょに考えたいのです。

主は私たちに務めを与えてくださいました。主は私たちに義務をくださったのです。私たちには当然しなければならない務めがあるのです。そのことをパウロは私たちに教えています。ペテロも、弟子たちもそのことを教えてくれています。そして、そのことを主イエス・キリストが教えてくれています。今日、私たちはその中でも使徒の働き1章を通して、今一度、私たち信仰者に与えられた大切な務めについて、ごいっしょに見ていきます。

☆信仰者に主から与えられた義務について

— 当然、しなければならない務め

A. その務め

使徒の働き1章8節、皆さんよくご存じのみことばです。「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」。このみことばを見るのですが、その前に、主イエス・キリストが十字架にかかれ、そして、よみがえられて40日間、神の国のことを語り、多くの証拠をもって、ご自分がよみがえったということが3節に記されています。「イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現われて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。」、その後、4-5節「彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。5 ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」と、最後に、主イエス・キリストが昇天される前に、弟子たちに話されたことは「聖霊のバプテスマ」についてでした。

確かに、このことはすでに主イエス・キリストが弟子たちにお話になっていました。ヨハネの福音書の中でも16:7にはこのようにあります。「しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。」。主イエスは繰り返して助け主をあなたたちのところに送るという約束をお与えになりました。そして、今まさに、主イエス・キリストが昇天なさる前に、弟子たちにそのことを告げられたのです。その時に弟子たちは、非常に面白い返答をしています。聖霊のバプテスマのことを話されたイエスに対して、弟子たちが言ったことは、6節「そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」と、この弟子たちの関心が何だったのかが分かります。彼ら

の関心は、この地上に御国を建てること、御国を築くことでした。ですから、彼らはこのような質問をした訳です。そのことを彼らは待望していたからです。その時を待ち望んでいたからです。

それに対するイエスのお答えを見ると、7節「イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。」です。ここから、二つのことが分かります。弟子たちの質問に対して、二つのことを明らかにされました。

(1) **必ず、主が地上に王国を築かれる**：そのことは絶対に起こらないという否定をしていません。

(2) **その日が定まっている**：主がご自分の権威をもってお定めになっているとあります。

確かに、地上にその王国が建国される、そのことは明かです。その時がいつなのか、父なる神はご自分の権威に基づいてもう決めておられる。だから、イエスはこの弟子たちの質問を否定していません。「それは起こる。」と反って肯定しています。

しかし、このやりとりを見ると、私たちが考えなければいけないことは、繰り返しますが、なぜ、イエス・キリストは最後の最後に天にお帰りになるその前に、この聖霊のバプテスマについて話をする必要があったのかということです。なぜ、もっと他のこと、天の希望とか、違うことをお話にならなかったのでしょうか？それはこのような理由があったからです。地上の王国が築かれるそれまでの間に、私たち信仰者には大切な務めがあるからです。この地上に王国が築かれることをイエスは否定したのではありません。それは必ず起こると言われました。イエスはそのことをご存じです。しかし、その時まで地上に残されている私たち信仰者には、大切な務めがあるのです。そのことを最後に、弟子たちに教えておられるのです。

主のあわれみによって救われた信仰者一人ひとりには、しなければならない大切な働きがあるのです。重大な義務があるのです。どのような務めか？どのような義務か？→それは、**彼らが主イエスの証人として働きをなすことです**（8節）。そして、その働きをなしていくために「聖霊」が必要なのです。だから、主はここで「聖霊のバプテスマ」についてお話になったのです。この時は、イスカリオテのユダがいのちを絶っていたので、11人の弟子でしたが、主はここでこの弟子たちに「わたしの証人となります。」と言われました。しかし、このことはみことばを見ると、主が信仰者一人ひとりに望んでおられることです。

主イエスの大命令を覚えておられるでしょうか？「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。」、時代が違って、国が違って、主のメッセージは変わっていません。弟子たちに聖霊のバプテスマのことをお話になったイエスは、「あなたたちはわたしの証人としてこれから生きるのだ。」と言われたのです。それから数千年が経ちましたが、このメッセージは今も変わっていません。あなたに対して主が望んでおられること、命じておられることは変わっていないのです。それは「わたしの証人として生きなさい。」です。

「証人」、これは私たちが自分が見たこと聞いたことを正確に証言する人のことです。今回のアメリカに滞在中、どのテレビ番組をつけても、この間、フロリダで判決が下った事件、2歳の息子を殺害した容疑をかけられていた母親に対する裁判のことが毎日のように放映されていました。多くの証人たちの証言、法廷の中の様子が生中継で全国ネットで流れていました。証人が呼んで来られて、宣誓をして、証人席に着き、そして検察側から弁護側から様々な質問を受けます。この証人たちの責任は、正直に自分の見たこと聞いたことを話すことです。「私はこのように思います」という意見を述べ始めると中断されます。その場は意見を聞く場所ではないのです。その場は、自分が見たこと聞いたことの真実を明らかにする、その時間です。

主イエス・キリストが、「あなたたちは私の証人として生きるのだ。」と言われた時に、私たちに必要なことは、**私たちは主イエスに関する真実を人々に対して証言するという務めをいただいたのです**。私たちがどう思うかということを使うではありません。私たちがどのように感じるかでもないのです。主イエス・キリストがいったいだれなのか？主イエス・キリストがいったい何をなさったのか、この真理を私たちは人々に証言するのです。主イエス・キリストは唯一真の神です。創造主なる神です。私たちをお造りになった神です。すべてを支配しておられる神です。そして同時に、この方はあの十字架にあって、私たち罪人の罪を負って死んでくださり、そして、三日後によみがえられた救い主です。私たちはこのイエスがいったいだれであり、何をなさったのか、このことを人々の前で明らかにするという大きな責任をいただいているのです。

使徒たちはそのことをしました。この命令をもらってから、この「使徒の働き」の2章、また、その後を見ていくと、確かに、それを実践している人たちの様子が描かれています。2：32を見ると「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」、3：15には「いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。」とあ

ります。また、5：32にも「私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。」とあり、弟子たちは自分たちが何を考えているか、どんなことを思っているか、そのようなことを話していたのではありません。自分たちが実際に見たこと、聞いたことを話しているのです。この事実を、真実を、彼らは人々の前で宣べ伝え続けたのです。それが証人の役割です。主イエス・キリストは、恵みによって救われたあなたに、このイエスのことについて人々に真実を伝えてゆきなさいと言われます。

確かに、私たちはイエスにお会いしたことはありません。でも、私たちにはこの「聖書」が与えられました。ですから、私たちは聖書の真理を人々に語るのです。そして、少なくとも、主の恵みによって救われた人たちは、主があなたを救ってくださったこと、主があなたの内に宿っていらっしゃる、主が生きて働いていらっしゃることを確信しています。そうですね、皆さん！あなたは日々の生活において「主よ、感謝します。私とともにいてくださるから。主よ、感謝します。私を変えていってください。主よ、感謝します。あなたがこうして祈りに応えてくださっているから。主よ、感謝します。あなたが罪を示してくださっているから。」と、そのようにして、主の臨在を、確かに、目で見ることには出来ないけれど、私たちは確信しています。なぜなら、主が確実に、みことばが教えるように、あなたや私のうちに働きをなしていらっしゃるからです。確信しているのです。聖書が教えているように、主が働いてくださっていることを。私たちは「難しい話をしなさい」と言われているのではありません。「イエスの証人として生きなさい」と言われているのです。英語の「殉教者(Martyr)」ということばは、この「証人」と訳されているギリシャ語からきています。多くの人たちはいのちがけでこの真理の証をしました。その結果、いのちを落としたからです。しかし、主が人々に与えられた、信仰者に与えられた大切な務めは「イエスの証人として生きなさい」です。

使徒の働き4章19－20節を見るとこのように記されています。「ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。:20私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」、イエスの名によっていっさい語ってはならないと脅されたときに、彼らは怯むことなく、「自分の見たこと、また聞いた…」真理を語り続けました。いのちがけで彼らはその真理を語ったと記されています。ペテロはこのように言っています。I ペテロ2：9「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」。

信仰者の皆さん、主イエス・キリストを愛していらっしゃる皆さん、あなたに与えられたこの務めをあなたは忠実に果たしていますか？キリストの証人として、このイエス・キリストの真理を、あなたは人々に証していらっしゃるでしょうか？今一度思い出さなければいけません。そのために主はあなたをこの救いへと招いてくださったのです。この大切な務め、義務を主があなたに与えてくださったのです。あなたを使う必要はないのです。あなたが働かなければ神のみわざが成されないということはあり得ないのです。あなたがどうしようと神のみこころは成され続けていきます。

しかし、感謝なことは、私たちのように罪深い者をその神の働きの一貫として用いてくださるという事実です。あなたの弱さを神は知っています。あなたの罪深さも、愚かさも知っています。それでいて神はあなたを用いようとしてくださっているのです。その方に用いられたいと願いませんか？その方に使っていただきたいと思いませんか？しかも、私たちはその偉大な神のすばらしさを宣べ伝えるという務めをいただいているのです。難しい神学を人々に語りなさいと言っているのではありません。主イエス・キリストがどんなにすばらしいお方であり、どんなにすばらしい救いのみわざをなしてくださったのか？イエス・キリストによって救いがあることを人々に語るのです。特権だと思いませんか？救われた者たちに神から与えられた特権です。

どちらかと言うと、私たちはくだらないことに熱心になっています。スポーツのことなど、それ以外にも、永遠と全く無関係なことに私たちは力を注いでいます。私たちがしなければいけないことは、私たちが造ってくださり、私たちが救ってくださった神が、私たちに託してくださったこの大切な務めをしっかりと果たしていくこと、このことにこそ私たちは最善を尽くしていくのです。そのように思いませんか？このような務めが与えられたと、確かに、みことばは私たちに教えます。

B. その力：その務めを大胆に為すためには？

二つ目に見たいのは「その力」です。務めが何であるかは分かりました。では、その務めを大胆に為していくためにはどうすれば良いのでしょうか？力が必要なのです。「大胆に」と敢えて言わせていただいたのは、それが聖霊なる神の成される働きだからです。今日のテキスト、使徒1：8を見ると「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。」と言われました。今、私たちはイ

イエス・キリストを信じたなら聖霊をいただきます。しかし、ここでイエスが言われたのは「もうまもなくすると、あなたがたは聖霊のバプテスマを受ける」です。まだ、受けていなかったのです。特別なときです。今の私たちとは違うのです。このときはまだ聖霊の働きがこのように制限されていました。

ぜひ見ていただきたいのは、この８節に「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、」、聖霊が与えられるときに、私たちは力を受けるとあるところです。非常に興味深いことばがここに使われています。それは「力」ということばです。１８８６年（明治１９年）、ノーベル賞で有名なアルフレッド・ノーベルが爆薬を発明しました。彼はギリシャ語の学者であった友人に、爆発する力、強力な力をギリシャ語で何というのかと尋ねました。友人は「それはダイナミスだ」と答えました。そのときから、ノーベルはこの爆薬のことを「ダイナマイト」と呼ぶことにしたのです。

主イエス・キリストはここで「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、」、このダイナマイトである力があなたに与えられると、そのことを弟子たちに教えたのです。確かに、この後、弟子たちは大胆に主イエスの証をして行きます。使徒４：１３には「彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。」と記されています。弟子たちは非常に大胆になったのです。たとえ、自分のいのちが狙われても、その結果、いのちを落とすことになったとしても、彼らは大胆に「イエス・キリストが真の神であり、救い主だ。この方が真の神だ！」ということを証して回ったのです。聖霊はそのような力を与えると言うのです。確かに、聖霊なる神の力はすごいものです。

◎聖霊の力＝

１．救いにおける力： 罪人を救いへと導いてくださる

私たちを救ってくださる方です。聖霊なる神の働きを見たときに、私たちが聖霊なる神をまだ知らなかったとき、神に逆らっていたときに、私たちの内に自らの罪深さを示してくれました。ヨハネの福音書１６：８に「その方が来ると、罪について、…、世にその誤りを認めさせます。」とある通りです。ですから、聖霊なる神は、全く神のことなど分かっていなくて、好き勝手に生きていた私たちの心に働いて、自分が神の前にいかに罪深い存在であるかということを感じさせてくれる、そのような働きをなさったのです。同時に、あなたを真理へと導いてくださる。ヨハネ１６：８はこのように続きます。「…義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。」と、神は私たちが神の前に間違っていることを明らかにするだけでなく、神の真理を明らかにして、悟らせてくれるのです。

そして、それだけではありません。聖霊なる神はその人たちが救いへと導かれます。使徒１１：１８「人々はこれを聞いて沈黙し、「それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ。」と言って、神をほめたたえた。」、「いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになった」のはだれですか？「神です」と言って、弟子たちは神をほめたたえたのです。ユダヤ人である自分たちだけだと思っていたのに、神は同じように、異邦人に救いを与えられた。神が人に、罪人に救いを与えるのです。テトス３：５にも「神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、」、つまり、私たちの行ないによってではなく、「ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。」とあるように、神があなたを救ってくれたのです。神は私たちが新しく生まれ変わらせてくれます。神はそのような力をお持ちです。

罪の中にどっぷりと漬かっていた私たちを、そこから救い出して生まれ変わらせてくださった。神の敵として生きていた私たちを、神の味方として、神の子どもとして生まれ変わらせてくださったのです。その力によってあなたは生まれ変わったのでしょうか？その力によってあなたは神を愛する者に生まれ変わったのでしょうか？この救いは神のみわざです。神のみ力です。

２．奉仕（働き）における力

聖霊なる神の力とは、奉仕において、働きにおいても大きな力をもたらしてくれます。救いにおいてもそのみ力を見ましたが、私たち信仰者が主に仕えていくときに、その奉仕の働きにおいても聖霊は確実にあなたや私を助けてくれます。Ⅰコリント２：４には「そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。」とあります。パウロはこのような告白をしています。「私が知恵ある者だから、私の宣教はこのように多くの実を結んだ。」とは言わないのです。パウロは、主のあわれみによってこのようなみわざがなされたと言います。彼は自分の力を一つも誇っていません。神の御力だと彼は告白しています。

確かに、ヨハネの福音書には１４：１６「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」とあり、１６：７でも「しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しか

し、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。」とあります。この聖霊なる神は「助け主」なのです。ということは、主なる神はあなたに大切な、重大な務めを与えられました。この主を人々の前で証するという務めです。しかし、その働きを為すために助けが必要なことを神はご存じなのです。だから、助け主を送ってくれたのです。この助けがなければ何も出来ないのです。多くの人は言います。「キリストの証人として行きなさいと言われても、私はとても口下手なのです。上手く喋れないのです。」と。だから、イエスは助け主を送ってくれたのです。「いやあ、私は人の前に立つとすぐに上がってしまって…、あがり症なので上手く人と話が出来ないのです。」、だから、助け主を送ってくれたのです。「私は聖書の知識が乏しいから、いろんな質問が来たら、どう答えていいかわからない。」、だから、助け主を送ってくれたのです。「私の信仰歴は非常に浅いのです。」、だから、助け主を送ってくださるのです。

あなたのことを知っておられる神はこのような備えをしてくださったのです。よく考えてください。神がどのような務めを自分にくださったのかを、こうして今一度思い出したときに、そして、もしその務めを私たちが忠実に果たしていないとしたら、私たちがどのような言い訳をしても、その問題は自分にあることに気がきます。なぜなら、神はあなたの弱さを知って助け主を送ってくれているのに、私たちが「今ちょっと忙しいから…、他にしなければいけないことがあるから…、もう少し学びをしてから…」などと言うなら、私たちは神の前に忠実に歩んでいないことです。ご存じですか？皆さん、主の命令に忠実に従わないということは、神の前に罪を犯しているということです。主なる神が「このように生きなさい」と言われたのに、私たちがそれに従わないということは、私たちは罪を犯しているのです。

この弟子たちを見るときに非常に励まされます。たとえば、使徒4：29を見ると、ペテロとヨハネが釈放された後、彼らは弟子たちのところに行きました。弟子たちは心をつにして神の前に祈りをささげています。「主よ。いま彼らの脅かしをご覧になり、あなたのしもべたちにみことばを大胆に語らせてください。」、彼らが望んだことは「みことばを大胆に語らせてください。」でした。その力を私たちに与えてくださいと祈るのです。31節「彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語りだした。」、すごいと思いませんか？彼らは主の前に求めたのです。確かに、いろいろな迫害があるし、困難があるけれど、私たちはその中にあって、あなたが与えてくださったこの務めを大胆に忠実に為していきたい。主よ。どうぞその力を与えてくださいと祈るときに、彼らにその力が与えられたのです。そして、彼らは大胆に神のおことばを、真理を語り出したのです。

あなたに欠けているのはこの点ではありませんか？福音を語ってもなかなか反応がない、語ってもなかなか結果が出て来ない…。私たちが求めなければいけないことは、「主よ、このような現状の中にあっても私自身が意気消沈することなく、大胆にあなたのことばを語れるように、どうぞ、私に助けを与えてください。」です。弟子たちはそのように祈ったのです。そうして、神は彼らの祈りに答えてくださり、そして、彼らは大胆に語り続けたのです。

聖霊なる神の助けがいます。聖霊なる神がいつも私たちを支配し続けていくことが必要なのです。パウロが「御霊に満たされなさい。」（エペソ5：18）と言ったように、これは命令です。継続してそのように生きて行きなさいと言うのです。私たちも今、この時代に生きる信仰者として、パウロたちの時代と同じように、聖霊なる神によって支配されて、そして、その力にいただきながらこの務めを果たしていくことが必要です。フィラデルフィアの有名な牧師で、もう天に召されましたが、ジェームス・ボイスという先生は使徒の働きの中の「聖霊に満たされる」というフレーズを調べた後、このようなことを言われています。「個人であれ、グループであれ、聖霊に満たされたときに、人々は直ちに、イエス・キリストの証を力強く始めている。」と。私たち信仰者が、聖霊なる神に満たされたときにそこから出て来る結果は、イエスのことを大胆に人々の前で語り続けることです。なぜなら、皆さんも覚えておられるように、聖霊が私たちのうちを支配しているときに、私たちの内には喜びが満ち溢れます。神が成してくださった贖いのみわざを覚えるときに、それに感動します。そのときに、私たちはそのことを人々に伝えていきたいという思いを強めます。聖霊なる神があなたを支配し続けていることは、あなたの宣教、主イエス・キリストについての真実を宣べ伝えるという、その働きによって明らかにされます。そうと思いませんか？イエスのことを人々に伝えたくない、そういう思いを持ったこともあるでしょう。そのときの信仰状態はどうでしょう？聖霊に満たされていたのかどうか？明らかですね！

(1) 神との交わりをいつももつ

(2) 聖霊を悲しませてはならない＝エペソ4：30「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。」

(3) 聖霊を消してはならない＝Iテサロニケ5：19「御霊を消してはなりません。」

これらは、聖霊について教えられていることです。

3. 生活における力

同時に、救いだけではありません。奉仕の働きにおける力だけでもありません。実際に、私たちの生活においても、聖霊は大きな力です。私たちが毎日の歩みをしていく上において、聖霊なる神は大きな力です。聖霊なる神は、確かに、私たちがみことばで学んでいるように、私たち信仰者をキリストに似た者へと日々変えていこうとしておられます。そういう働きが始まったのです。あなたがイエスを信じたときに、神はあなたを「聖い」と宣言してくださった。そのときから、あなたに内住する聖霊なる神は、あなたをより聖い者に、より正しい者に、より神が喜ばれる者へと変えていくその働きが始まりました。私たちが考えなければいけないことは、聖霊はそのような働きを始められたこと、あなたをイエスに似た者に変えようという働きが始まっていること、では、あなたの言動はキリストのすばらしさを証するものになっているかどうかということです。神はそのような働きをもうすでにあなたの内に始められたからです。問題は、そのような働きをあなたが日々実践しているかどうかです。もし、していないとするなら、何か問題があるのです。ひと言で言えば、私たちの内にある罪が邪魔するのです。私たちの内にある罪が、そのように生きないように邪魔をするのです。主のみこころに忠実に従っていこうとさせまいとする、悲しいことに、そのような働きが私たちの内にあるのです。

だから、今見てきたように神の助けが必要なのです。私たちが働きをするときにも、聖霊の働きをいただきながらしなければいけないのです。どのような奉仕でも「この奉仕は自分でやれます。」ということは危険です。私たちがこうして息をして、こうして生きていることも神の恵みです。どんなに小さな働きでも神の助けをいただくときに、結果的に、私たちは「神さま、感謝します。」と、神にその栄光を返すのです。自分でするなら「良くやったね!」と自らをほめます。私たちの普段の生活においても、聖霊はあなたを変えようとしておられます。イエスに似た者へと変えようとしておられます。あなたの言動がイエスのように変えられていくことです。

テトスへの手紙2章に、パウロは非常に興味深いことを記しています。どのように生きて行くのか？そのことを話しています。3節には、年をとった婦人はこのように生きて行きなさいと話します。もし、あなたがそのように生きるなら、このようなことが可能になりますと言っていますが、今、見ていただきたいのは5節の最後です。「**慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さとすことができるのです。それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。**」、「**神のことばがそしられるようなことのないため**」とあります。つまり、パウロはここで「このように生きてゆきなさい。そうでなければ、神のことばがそしられることになってしまいます。」と言っているのです。そのようなことがあってはならないと言うのです。神のことばがそしられないために、私たち信仰者は生きるのです。

この「そしられる」ということばは、「ことばでもって悪口を言う、中傷する、非難する」、また、「冒瀆する」ということばもこのギリシャ語の中に含まれています。パウロは何を言っているのでしょうか？どうすれば、神のことばがそしられることになるのでしょうか？もし、信仰者である人たち、クリスチャンだと言っている人たちが、みことばに従わないときに、みことばがそしられるのです。口では「私は信仰者である」と言って、みことばの知識を持っているにもかかわらず、みことばに反した行ないをするときに、主イエスを信じていない人たちはその人だけでなく、主なる神に対して非難するのです。「**見てみなさい、あのクリスチャンを…。イエスを信じていると言いながら、神を畏れていると言いながら、彼らの生き様はだれが見てもおかしい。**」と。つまり、私たちはこの世界にあって大きな責任を負っているということです。私たちは神によってこの世界に置かれました。その場所にあって、その社会にあって、その環境にあって、私たちはキリストのすばらしさを証するのです。

しかし、もし私たちが、神のみことばに反する生き方をしていくならば、神のみことばに反する選択をするならば、悲しいことに、周りのイエスを知らない人たちは、あなたの内にイエスを見ないだけでなく、あなたの神を、そして、あなたのみことばをそしることになると言うのです。こんなことがあってはならない、こんな悲しいことがあってはならないのです。テトス2：8に「**非難すべきところのない、健全なことばを用いなさい。そうすれば、敵対する者も、私たちについて、何も悪いことが言えなくなって、恥じ入ることになるでしょう。**」とあります。つまり、ことばにおいても態度においても、私たちは神の前に、そして、人々の前に責任を負っていると言うのです。「それは余りにも重すぎます。私の不完全さを思えば、そんなことは重すぎます。」と言いますか？だから、助けが与えられているのです。

あなたも私も、この社会にあって不完全な者です。神の前に喜ばれることを願っているながら、なかなかできない者です。だから、私たちは神に助けを求めながら、私たちの言動が神を悲しませることがないように、神のみことばを人々がそしるようなことがないように生きていくのです。私たち信仰者は、失敗しながらでも、そのときには正しい対応をして、私たちの神がどんなにすばらしいのかを世に証し

ていく大きな務めがあります。あなたは証人なのです。イエス・キリストの証人です。しかし、そのためには神の助けが必要であり、そして、グッドニュースは「神はあなたを助けてくれる。」です。どんなときにも、この方に助けを求めながら、どんなときでも、私たちはこの方に力をいただきながら、主のみこころを為していこうと、そのように私たちは生きるのです。

イスラムの大きなカンファレンスが行なわれるという話をしました。面白かったのは、テレビをつけると、どういう訳か、その番組の中にイスラムのことを説明したり、紹介している番組がありました。それは番組と言うよりも、録画された同じものが継続して流れているのです。その中で、クリスチャンとイスラムを何とか手を結ばせて平和をもたらそうとている、そんな働きをしている責任者がこのようなことを口にしていたことが忘れられません。「西洋社会がイスラム教を求めるためには、あなたの信仰を実践すること、あなたの信仰を示すこと、語るよりも生活の中に示すこと、見せることだ。」と。どこかで聞いたことがありませんか？

彼らも言うのです。人々がイスラムに心を開くためには、自分たちがそれを語ることに以上、どのように生きているかが大切であると。私たち信仰者にも同じことが言えます。私たちはどのように生きるかです。神が喜んでくださる生き方を、あなたも私も為すことができます。その力ギは聖霊です。感謝なことに、聖霊は私たちの内にもうすでにいてくださるのです。その方に助けを求めながら、主のみこころを為すことです。しっかりと主が与えてくださったその務めを、その義務を覚えて、それを果たすために備えられた主の助けを、力をいただきながら主を証していってください。あなたのことばをもって、そして、あなたの生き様をもって…。

☆考えましょう：

1. 我々信仰者に与えられた務めは何ですか？
2. その務めを我々が果たすために、主がしてくださったことは何でしたか？
3. どうして聖霊なる神の助けが必要なのですか？
4. 私たちは日々の歩みにおいて注意しなければならないことがあります、それは何ですか？具体的にお書きください。
5. 我々は、「神のことばがそしられないために」どうすれば良いのでしょうか？